躍動する新中国

世界労組大会と視察記⑩

北岡　隆

私たち一行が北京から南京に着いた時には、すでに中国での行動予定の半ばを費していたので、南京からは超特急で交流しなければならぬ破目になった。南京では南京市工商聯合会副主席から解放前後の事情と歴史の説明があった後、中山陵（孫文の墓）その他二、三カ所と人民公社などの見学をしつぎの目的地上海へ向った。

上海から東へ八〇〇キロ、海を渡れば福岡、長崎放送がジャンジャン入ってくる。お隣りの中国とはよくいったもので、大牟田から東京までが一〇〇〇キロだから、私たちの街からは上海が近いことになる。この上海も戦前は帝国主義者の植民地として、阿片、暴力トバク、欲楽の消費都市として寄生虫のように、中国を蝕ばんでいた街でしかなかったのだが、私たちが見た上海は違っていた。

躍進する上海

消費都市から大工業都市へと生れ変わった上海（上海市での全生産品の約六〇パーセントは重工業製品）は、文字通り重工業都市となっているが、私の驚きはそのことよりも、さらにこのような中国の各都市のすべてが、純然たる民族資本によって中国を一つ一つ築き上げている姿が、目の前にみた上海であったが、上海での一日、柴油机廠（ジーゼル製作工場）を見学する機会を得、直接働く人々と交流する機会を得たことは、短い中国滞在の中では二度とない機会だったので、私は現場の労働者の一人につぎの質問をしてみた。

「あなたが働いているこの工場や機械はもちろん、何一つないこの街にどのようにしてこの工場を造ったか」これに対して彼はこう答えた。

私たちは機械をつくる機械一つない工場で、自らの手で機械をつくりました。その機械で新しい機械をつくり、さらにそれでまた新しいのをつくるというふうに、辛抱づよく斗ってきたのです。今日では四九〇〇名の労働者がおり、八〇～一二〇馬力のジーゼルエンジンを日産三〇～三五台つくることができます。と答えた。

代表団の一人が日本と比べると貧弱なものだといっていたが、間もなく日本に追いつき追いこす時が来るような気がした。

政府の教育奨励も相当の熱の入れ方のようだ。上海全市民一〇〇〇万人中、労働者一〇〇万、そのうち八〇万が毎日仕事を終えた後で、市内のどこかの学校（業余学校）で勉強しているそうだが、自分たちの勉強する自体が中国人民の幸福に連なるわけです。と答えるに至っては、相当の徹底した思想をたたきこまれているようだ。

かつての貧民窟中連村

蚊とハエの温床地帯の貧民窟、犬小屋同然の住い。食うものがなければ人の捨てたものを拾い食いする、これが解放前の私たちの姿でした、とことし六十七才になる黄さんはいってさらに説明を加えた。

この村に皆さんがきても昔の面影は何一つありません。昔は村の中を臭いドブ川が七十四本も流れ住いもほとんどドブ川の上にありました。体は強くても仕事にはありつけず、たまにありついてもひどいインフレで、賃金をもらっても米を朝方三〇斤買えたのが、夕方には一〇斤しか買えぬという有様でした。

（以下次号へ）

（右）まだこんな家もあるが、次第に取こわされて（左）のような住宅に姿を変えている。

三池支援を決議

新聞労連の定期大会で

三池の斗いはひろがっている。新聞労連ではこのほど第十七回定期大会をひらいたが、大会で三池労組の斗いを支援する決議がつぎのように行なわれた。

三池労組の闘いを支援する決議

全日本の労働者、平和を守ろうとする国民大衆の先頭に立って果敢な斗いをくり広げている三池炭鉱労働組合のみなさん、主婦会のみなさん。

みなさんたちの組織を分断した三池資本とこれを支える内外の反動勢力は、合理化計画を達成するため、落盤、断層対策をサボリ、人道的に許されない差別待遇、さらに新たな分裂策動を行うなど、あらゆる手段で労働組合の破壊に狂奔しています。そして彼等は月産一五、〇〇〇トン体制を強行するなかで、すでに二六人の労働者を殺しました。

このような狂気じみた弾圧のながで、一歩もひかず、継続的な方別ストを中心に、あらゆる職場のすべての力を反合理化、反独占の斗いに集中してねばりづよく斗うみなさんたちの斗争はわれわれに真の労働者の勇気がどのようなものであるかを教えてくれます。

新聞産業にあらわれている合理化は製作部内の機械化を中心に急速に進み、同時に紙面は、労働者の大衆行動を左翼の暴力と一方的にきめつける極端な偏向をみせています。

そして、これに抵抗して斗う労働組合にたいして、敵はあくなき分裂攻撃をかけ、首切りを行い、平和協定をもち込もうとしています。われわれはここにみなさんたちが対決している敵と共通の敵をみるのです。合理化攻撃をハネ返す斗いは、職場の民主主義を奪還し、確立する斗いを基礎としないかぎり堪え得ないでしょう。職場権利斗争を武器に、敵の合理化計画と徹底して対決しているみなさんたちの斗いは、われわれ新聞労働者の反合理化斗争のなかに正しく生かされ、力強い前進をみせています。

三池炭鉱労働組合のみなさん、主婦会のみなさん、新聞労働者はみなさんの斗いを決して忘れず、自分たちの斗いとして斗っていることを報告します。

労働者の輝かしい勝利まで、団結がんばろう。

一九六二年七月二十七日

新聞労連・第十七回定期大会

炎天下に団結行事

暑さふっとばす各地域行事

団結運動会で暑さを

ふきとばせ

連日の酷暑でいささかグロッキー気味だが、各分会では暑さものかわとばかり、暑気をふっとばす元気で団結レクレーションをくり広げている。

三川支部ひのき分会では、例年夏季行事の一環として海水浴などのレクレーションを催していたが、ことしは全員が参加できる団結をつよめるレクレーションをと計画、団結運動会を七月五日の日曜日に実施した。

会場のひのき分会広場にはテントが張られ会場整備もとどのい、午前八時三十分全員のホークダンスで幕を切った。

プログラムは二十五種目、組合員も主婦も小中学生、幼稚園のよい子たちも参加ビン釣り競走（中学男女）はしごくぐり（小学男子）スプンレース（女）煙草火つけ（男）など、創意をこらした各種目に会場は湧き上り、炎天下に暑さも忘れて団結行事がすすんだ。

支部長杯ソフト球

港務支部でもこの五月、地域分会対抗のソフトボール大会を新港球場で八チームが参加して熱戦、珍プレーを展開した。

チームの中堅となる行動隊員が水俣オルグとして欠けるなどの番狂わせがあって、年配組が意気ごみもよく参加し、試合に多彩さをまして試合にもひとしお熱が入る。

海岸に近く真夏の直射光線がジリジリと照りつける中で試合がすすみ、声援もしきりにとび交った。

結局、晴れの支部長杯は新港チームの手に渡って試合はどどこおりなく終了した。

少年野球始まる

組合主催の少年野球が各支部ではじまった。

トップを切って宮浦支部が五月、天道小学校グラウンドで開始した参加チームは十チーム。試合はABの二パートに別れてすすめられたが、ユニホームに身を固めた少年たちは、三池労働者の子供らしく暑さも何のその、たくましい試合はこびで熱戦をすすめた。

少年たちの試合に負けず、地域の組合員、主婦の声援もなかなか熱が入っていた。

なお、優勝戦は十四日の予定である。

（上）宮浦支部少年野球（中）ひのき分会運動会（下）港務支部ソフトボール

相つぎ組合旗寄贈

組合本部　三川支部へ　組合員、遺族から

このほど組合本部、三川支部では組合員からの心のこもった組合旗の寄贈をうけ、執行部では感謝のうちに、この組合旗の寄贈をうけた。

三川支部の三浦熊市さんは、いま病床にありその安否が気づかわれているが、三浦さんはその病気の三川支部では十一、十二日の二日間にわたって十八チームが参加して熱戦が行なわれるが、各地域ではいま最後の練習にはげんでいる。四山支部では八日に十四チームが参加して熱戦の予定、なお優勝戦は盆休みの十四日に実施する。

中から、ぜひとも組合に寄贈したいと組合旗を支部におくられたのである。

三浦さんの容態を気づかう組合員は、支部事務所に掲げられてある寄贈の組合旗をみて、いよいよ力つけられ、斗いを誓い合っている。

組合本部へは相ついで二件の組合旗の寄贈をうけた。

一つは、四山支部の野田正人さん野田さんはいまけい肺にやられ療養中であるが、悪質な会社は野田さんの入替として奥さんの採用を三池斗争中の行動に難くせをつけて今日まで拒否している。

職業病で冒された野田さんの身を案ずるどころか、会社はさらに追い打ちをかけるようにこんどの挙に出ており、これに対して野田さんは斗いつづけている。

もう一件は、六月二十七日に宮浦鉱で殉職された波村、井手口、徳永さん三家族の遺族から贈られた組合旗である。

組合では深く感謝してこの組合旗を有難くうけ、保安サボを許せぬとみんなが心に誓い合っている。

※　※　※

職対部より

阪急バス希望者は至急書類提出を

さきに本紙で募集した「阪急バス車掌」の件については、募集締切りが迫っていますので、希望者は八月三十一日までに、申込書類（履歴書、写真、学業成績証明書、健康診断書、戸籍謄本各一通）を揃えて、就職対策部まで提出して下さい。

文芸

【短歌】

三川支部　藤末

雨もりで天井までもカビの生えたりイスにのぼりてふく夜はしずか

朝まだき化粧し直し竪坑ヤグラ一際高くハトの群飛ぶ

一大事コレラ患者の帰り来し仮治療所にて記事をよむわれは

期末手当の掲示板二枚の記事見くらべ吟味しいる仲間あり

インドネシアに公演の予定いよいよ国際的になりぬと娘の便り仏前にそなえ母子して

【俳句】

四山支部　清水はるき

（七面山）

炎天の銀輪山河子と越ゆる

水冷えて岩間に子らのはい泳ぐ

（竪坑やぐら補修）

やぐら涼しいねぐら恋しと小鳩鳴く

頭上に注意足場組まるる夏雲に

眼うつやぐら昇坑る同志の汗黒し

セミ時雨雲にまかれて海低く

（長崎原爆忌）

硬幽のピン切り海に黙とうす

犬が足投げ冷やす樹下も原爆忌

トビの輪のせまし鉱区の空屋増し

鉱友去りし垣根に三度カンナ燃ゆ